

平成２４年度 学校経営計画及び自己評価

１ めざす学校像

「知・徳・体」のバランスがとれた生徒を育み「絆」を大切にする学校
１ わかる喜びや達成感を味わわせ、社会を生き抜くための「豊かな学び」(「知」)を定着させ、進路実現を図る。
２ やさしさを基盤に厳しく粘り強い生徒指導を展開し、規範意識を高めるとともに基本的生活習慣の確立に努め、豊かな人間性(「徳」)を醸成する。
３ 健康で安全な社会生活が営めるよう、健全な心身(「体」)をはぐくむ。
４ 生徒と生徒、生徒と教職員、教職員と保護者、そして地域や中学校との連携を強化(「絆」)する。

２ 中間的目標

社会の一員として自信を持って生きていける自立した人材の育成 ◆社会を生き抜くための「豊かな学び」の推進 ○多様で実践的な学習活動「豊かな学び」を展開することで、地域で必要となる人材となり、社会で生き抜くことのできる学力を身につけさせる。 ○生徒の進路実現を図るため、主体的な選択能力をはぐくむ取組を推進するとともに、将来の進路実現につながる教育課程のよる教育を実践する。 ○新学習指導要領を踏まえ、教材や指導法の工夫を図り、基礎的・基本的な学力を定着させると共に、充実した言語活動を展開する教育活動を推進する。 ○授業評価による点検を行い、わかる授業を展開し、生徒にわかる喜びや達成感を味わわせる。 ○生徒の興味・関心を高めるため、外部から専門家等を招いた講義・講演や体験的授業を積極的に展開する。 ◆基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成 ○家庭と連携し、学校生活を中心とした生活リズムを確立させ、基本的な生活習慣と規範意識を身につけさせる。 ○あらゆる教育活動において規範意識の醸成を図り、声かけをはじめとしてきめ細かい温かみのある生徒指導を徹底する。 ○社会人として自立し、社会の一員として生きていけるよう長期休暇中や「総合的な学習の時間」・LHRを活用し、キャリア教育や志学を展開する。 ◆健全な心身・人間関係力の育成 ○美しい学校環境を整え、安全で安心な学校づくりをとおして、生徒が健康で明朗に活動できる場を提供する。 ○健やかな心身の発達を支援するため、健康教育の取組を推進する。 ○自らの気持ちをコントロールでき、自ら考え、自ら判断し、自ら行動しようとする「こころ」をはぐくみ、円滑な人間関係を築き社会を生き抜くために必要なコミュニケーション力等の人間関係力を身につけさせる指導を全ての教育活動において推進する。 ○人権教育及び道徳教育を推進し、人権及び人間尊重の精神をはぐくみ、学校、家庭、地域で主体的に活躍できるような取組や教育活動を推進する。 ○部活動・学校行事の充実により、学校教育全体の活性化を図る。 ◆生徒・保護者・地域・中学校等と相互の「絆」の強化 ○日常の面談・相談・電話等の連絡・家庭訪問・中学との連携等により生徒・保護者と緊密な関係を築き、生徒理解を促進し、生徒への指導と支援を行う。 ○中学校との連携を深め生徒の育成と指導に取組むため、管理職・教員による協議会・交流等を定期的に開催する。 ○学校協議会や学校保健委員会の提言を教職員及び保護者に周知し、教育活動の改善を図る。 ○西淀川区内の中学校を中心に部活動や行事等での交流、出前授業や授業の相互見学などの実践により、中学校との相互連携を深める。 ○「環境フェスタ」、「菜の花プロジェクト」等の取組をさらに推進し、地域の方々や中学生が参加できる事業に発展させる。また、本校生徒が地域での行事に積極的に参加し活躍できるよう、地域との連携を強化する。 ○保護者や卒業生、中学生や地域の方々の理解と支援を得るため、広報活動の充実に努める。ホームページ等を活用してPR活動を積極的に行う。
--

【学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会における提言内容】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成２５年 １月実施〕	学校協議会における提言内容
＊「豊かな学び」についての検証を目的として生徒・保護者・本校教員・西淀川区内４中学校の教員を対象に実施した。 【学校満足度】 ・「学校に行くのが楽しい」の項目では、生徒の満足度６９％（前年度５４％）であった。コミュニケーションワークショップの導入、ＴＴの科目の拡大、冬フェス、夏フェスなどの生徒交流事業の新設など、人間関係作りに視点を置いた取組の成果と考えられる。 【授業満足度】 ・「楽しくわかりやすい授業」の項目では、生徒と教員の肯定的回答に大きな（生徒は５６％教員９４％）開きがみられた。生徒のつまずきの部分と、教員の考える「これぐらいはわかっているはず」という意識とのズレが課題と考えられる。また、協議会では、語彙力の不足から教員がかなり噛み砕いて平易な言葉で説明していても、その言葉が分かっていないとの指摘があった。 【キャリア教育】 ・キャリア教育に関わる項目では、６０～８０％の生徒が肯定的回答を寄せており、さらに学年が進行するほど肯定的回答数が増加している。一年次から体系的に実施しているキャリア教育の取組に対する評価と考える。 【豊かな学び】 ・ＩＣＴを用いた授業や体験的な学習については肯定的な回答が少なく、とくに１年生では低い評価に止まっている。ＩＣＴが活用しやすい環境設定やタブレット等の導入、活用方法についての職員研修の実施等が必要である。 ・ＴＴや外部講師を招聘した授業、体験的な授業についての生徒と教員の評価にはズレが見られた。生徒への丁寧な説明、取組の意義など、十分に理解させて取組むことが必要である。 【中高連携・地域の評価】 ・丁寧な生徒指導、少人数展開による基礎学力定着の取組、文化祭・体育祭など行事の工夫については７０％程度の肯定的意見が得られている項目もあるが、「評価できない」とする答えが４０％近くになるものもあり、本校の教育活動が見える形になっていないことがわかった。広報活動の見直しが課題である。	第１回（10/18） ○平成２４年度学校経営計画について ・独自教材作成や学習到達度を見るため学力の定点観測を行うことになっているが、「国語」についても実施されたい。国語はあらゆる学習の基礎となるものであるから、国語の力をつける取組をするべき。 ・「社会で生きる力をつける」という項目については、これを個々の教員が「どれだけ意識して教育活動を行っているか」につきる。この取組の評価は学校の評価はつながるもの。授業評価をするときにも、そこに観点を置くべき。 ・就職をしていくことから考えても、基本的な生活習慣のリズムを身につけることが大切。欠席や遅刻が一つの物差しになっている。だから、学校で重点項目として指導するのはよい。 ・学習指導が困難な学校では、「どの子も成長させたいという思い」を先生方が共有して授業の工夫をする必要がある。これがキーワードになる。 第２回（1/18） ○学校教育自己診断について ・設問の文言をもう少し細かく具体的な表現にしてはどうか。「提出物の提出」は①提出物があることを忘れている、②期限が過ぎたけれど出すようにしている、③期限内に出すようにしているなど、段階をはっきり示すと答えやすくなる。 ・「楽しくわかりやすい授業」の項目は、生徒と教員でずれがある。教員が「この程度は分かっているはず」と思う言葉でも、生徒は全く分かってない。語彙力がなく、日常会話での日本語の言葉(単語)も理解できていないことが多い。簡単な文章でも読めない若者が多く、個々の言葉の意味など分かっているはずがない。平易な言葉に落としてその時々 に生徒に理解させる必要もあるが、一方で最終的に就職試験というハードルもあるから、落とすばかりではいけない。難しいところ。 ・情報機器や視聴覚機器の使用が少ないようだが、タブレットなど利用し工夫をすることも必要。 ・「わかる授業」とあるが、よく分からなくても興味関心を高め、知的好奇心を持たせることも教育の狙い。更に、やりたいことを見つけさせることも教育の使命。 ・指標を定める必要は理解できるが、数値指標になじまないものもある。１年間の幅で評価しても、本校では成果がなかなか見えないものもある。卒業後社会人として巣立つことが大切だから、西淀川では生徒の３年間の伸びを評価すべきでは。 ・教育の目的は社会で生きていく力をつけること。本当に必要なことは、心である。社会に出ると何よりコミュニケーション力が必要となるので、生徒たちにその力をつけるように先生方には頑張って欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
社会を 生き抜くための「豊かな学び」の推進	○社会人として主体的に活躍でき、就職試験に対応できる学力をつけさせる。	○すでに開発済みである学校独自教材「TAG」等の活用を促進し、基礎学力の向上を図る。	○取組回数および学力の定点観測	○年間を通して全学年で組織的に本校オリジナルの基礎学力教材に取組み、数学の定点観測（計算等）では平均点が3pt上昇した。（○）
	○「わかる授業」や「学び直し学習」を推進する。	○生徒の実態に合わせ学校独自教材「TAG」等の内容の改善や「学び直し」のための新たな教材を開発する。	○開発状況、使用状況及び生徒の評価	○新たに「N-TAG」（数学と入社試験問題）を開発した。短時間に集中して学習に取組むことにより、学習達成感につながった。（◎）
	○教師の授業力・指導力の向上を図る。	○少人数やTTによる授業を拡充するなど、工夫のある授業を展開する。	○学校教育自己診断、生徒による授業評価	○体育、情報に加えて1年現代社TTを実施。授業アンケートによる授業評価では78%が肯定的回答を寄せている。また、模擬裁判・高齢者交流・公害病患者さん交流等「豊かに学ぶ」授業を展開し、いずれも生徒から感想は「新しいことを知った」と好評であった。（◎）
	○生徒理解を進め、学力及び意識・実態の定点観測を行う。	○毎学期に、公開授業等を行う。また、学校外から教育関係者を招聘し授業研究に取組む。	○実施回数（1回/学期以上）、外部指導者による評価	○公開研究授業は年3回実施した。和歌山大学教育学部平田准教授が12名の授業を視察し分析・助言を得た。12/20に全員の授業改善につなぐため職員研修を行い、専門家の授業分析を参考に授業の見直しをすることができた。（◎）
基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成	○学校図書館を活用し、生徒の読書習慣を確立する。	○本校独自の生徒実態調査を行い、生徒理解を推進する。	○生徒実態調査の実施及び分析	○生徒理解と生徒指導のため5/24山下医師、7/3小田准教授の研修を実施した。教員からのアンケートでは「発達障がい理解できた」と好評であった。生徒実態調査（授業アンケート、人権意識調査、保健部）実施し、生徒理解につながった。（◎）
	○生活リズムの確立のため、遅刻指導の徹底を図る。	○中学校や保護者との連携を深め、支援の必要な生徒への対応を行う。	○生活実態調査の実施、中学校訪問及び日常的な連絡連携の内容と回数(20%up)、家庭訪問回数の増加(30%up)	○家庭訪問件数は280件（2学期末暫定・昨年度末231件）で、中学校訪問数は160件（2学期末暫定・昨年度末161件）で中学・保護者と連携した生徒指導が効果的に進められた。（◎）
	○規範意識の醸成のため、全教員による生徒指導を推進する。	○毎学期に、読書推進週間を設定するとともに、図書館での授業を積極的に行う。	○貸出冊数と図書館での授業実数	○貸出冊数338冊。2科目（環境、時事問題研究）で年8回の授業(2学期末暫定)を実施した。読書習慣の確立は大きな課題である。（△）
	○望ましい勤労観や職業観を育成する取組を行う。	○インターンシップや個別キャリアカウンセリング等のキャリア教育に関する取組を推進する。	○遅刻率（遅刻数／生徒数）の減少(20%down)、生徒アンケートによる評価と感想	○遅刻は2学期末で30.4回（昨年度39.2回）と着実に減少(22.4%減)している。日常の挨拶・登校指導、駐輪場指導、廊下・トイレ指導や『遅刻0週間』指導の成果と思われる。生徒アンケートでも65%が「遅刻なく」、58%が「全体的に頑張っている」と回答している。（◎）
健全な心身・人間関係力の育成	○情報リテラシーの育成を行う。	○教科「情報」やLHRなどで情報リテラシーの育成の取組を行う。	○実施内容及び回数、生徒アンケートの感想	○生徒指導(教育相談)と生徒理解のための研修を5/24山下医師、7/3小田准教授、さらに1/24体罰問題、と年間を通して3回実施した。発達障がいと体罰防止という今日的な課題について理解を深めることができた。（◎）
	○健康教育・食育の取組を行う。	○健康な心身をはぐくむため、「育て、収穫、味わう」の一連の体験授業に取組む。	○実施回数・内容・生徒アンケートの感想	○全学年とも日常的な総合学習に加え、毎学期複数の取組みを行っている（Open Campus参加、先輩の話を聞く、Money講座、企業人事担当者講演、コミュニケーショントレーニングなど）。いずれも事後アンケートでは「参考になった」との回答が65～80%を占めた。インターンシップには4社8名参加した。（在籍数に対する参加率は10.4%で例年並み）さらに、2年生全員と3年内未定者を対象にキャリアカウンセリングを実施し、働くことに対する意識高めることができた。（◎）
	○人間関係力を身につけさせ、コミュニケーション力育成のための取組を推進する。	○健康教育の取組(講演等)の充実を図る。	○実施内容及び回数、生徒アンケートの感想	○教科「情報」において情報リテラシーとネットいじめ防止の授業を実施し、正しい情報の扱い方につながった。（○）
	○全ての教育活動を通して人間関係力を身につけさせる取組(意見交換やプレゼンテーション)を行う。LHR等で参加体験型の取組を行う等を工夫する。	○外部講師を招く等、コミュニケーション力をつけるプログラムを工夫する。	○進路関係行事への参加生徒数の増加、実施回数と内容、生徒アンケートによる評価と感想	○環境授業でジャガイモの栽培・収穫を行い、家庭科の調理実習で食材として活用した。またサツマイモ収穫作業では地域との交流も実施した。（保育園児との収穫交流、環境フェスタでの交流会）。生徒に食物の一連の循環を理解させた。また、地域との関係性を深めることにつながった。（○）
生徒・保護者・地域・中学校等と相互の「絆」の強化	○人権尊重を基盤にした生徒を守る取組を行う。	○生徒への人権・道徳の学習を推進するとともに、教職員の人権や教育相談等の研修を実施する。	○実施回数・内容、生徒・教員アンケートの感想	○6/27水谷修氏による薬物乱用防止講演、3回の保健講演会（5/31ワーク、6/14小児科医、12/18養護教諭）を実施。生徒アンケートでは「内容が理解できた」など肯定的なものが93.7%だった。「保健だより」も毎月発行した。（◎）
	○健康な心身をはぐくむため、「育て、収穫、味わう」の一連の体験授業に取組む。	○道徳に関する講演や取組を行う。	○年間3回	○外部講師による授業は19回実施。参加体験型の取組みは、環境授業をはじめ時事問題や現代社会など多くの科目で実施した。生徒アンケートの感想は「よかった」「わかった」という肯定的記入が大多数を占めた。（◎）
	○人間関係力を身につけさせ、コミュニケーション力育成のための取組を推進する。			○コミュニケーショントレーニングは全学年で総合学習の時間を含めて年間を通して実施、1年・2年では外部講師による講座も実施した。生徒アンケートでは「考えて話せた」等肯定的なものが70%近かった。（○）
	○人権尊重を基盤にした生徒を守る取組を行う。			○人権HRは各学年とも年3回行い、職員研修は5回実施した。いずれも多数の教職員の参加を得て、研鑽を深めることができた。（○）
生徒・保護者・地域・中学校等と相互の「絆」の強化	○保護者との連携を強化する取組を行う。	○定期的な通信の発行。懇談・電話連絡・家庭訪問等を積極的に行う。	○発行回数。他は上述	○命の大切さや、自分を大事にすることについて6/27水谷修氏の講演を始め、環境・現代社会の授業で実施した。（○）
	○部活動・学校行事の活性化に取組む。	○毎学期の初めに、部活動推進週間を設定し、入部を促す。	○活性化に向けた取組の実施状況、部活動加入率	○メルマガは25回発行した。「保健だより」「学年通信」「クラスニュース」などは一部不定期であるが発行できた。担任等による電話連絡や家庭訪問は日常的に行われ、連絡が取れる保護者とは連携を図ることができた。（○）
	○セミナー室を積極的に活用する。	○補習・相談・面接等、生徒に有効な活用を積極的に行う。	○活用回数・内容・人数	○生徒会主催による全校生徒対象の夏フェス（7/17）に80人を越える生徒が参加、部活動や行事の活性化を図る取組みを工夫して行い好評であった。冬フェス（2/15）も実施予定。部活動加入率は今年度19%（昨年度20%）であった。（○）
	○地域や中学校との関係を密にした教育活動を推進する。	○中学校との連携により定期的に協同行事を行う。	○実施内容年間2回	○セミナー室は面談や面接指導など毎日使用された。個別の教科指導にも使用されたが、系統だった補習は実施できなかった。（△）
学校運営体制の確立	○教育活動や業務の効率化・ICT化を促進する。	○「環境フェスタ」等の本校がする行事に地元の方々や中学生の参加を求めるだけでなく、地域の清掃やイベントに積極的に参加し、地域や中学校の連携を深める。	○実施回数・内容・出席人数(20%up)	○新たに電動自転車や自転車を購入し、中学訪問や家庭訪問の便宜を図った。また新たに地元中学校において出前授業を3回実施した。（西淀中、淀中）さらに発展させていきたい。（◎）
	○適正な事務管理と施設管理を行う。	○新たな広報媒体（DVD、ニュース等）を活用し、広報を充実させる。	○実施回数・内容、体験入学等の行事への参加者数	○「環境フェスタ」は地域に根付き、春秋で220人を超える参加があった。「盆踊り」「区民まつり」等にも学校として生徒・教職員が積極的に参加した。T-weekでは全校生徒が学校周辺の路上清掃を実施し、クラブを中心に地域清掃を年5回行った。地元商店会とのコラボ授業を行い、商店会の取組みを知り、商店会のポスター制作などを行った。地域との関係は明らかに深まった。（◎）
	○管理職のリーダーシップのもと、首席・分掌長等の参画による学校運営を行う。			○今年は学校見学会を毎月実施し、参加者数は1月実施分までで昨年（54人）を上回る61人に達する。HPは全面リニューアルした。（◎）
				○3学期中に各分掌・委員会で総括会議を行い、まとめを職員会議で報告予定。25年度のプラン作りに活かす。